

第9回新鋭俳句賞

準賞

斜（なぞへ）

鈴木沙恵子

斜なま

1 買ひたての山の薄日や露のたう
 2 ぜんまいの綿に朝日を絡めとり
 3 残る雪今朝の足跡丸く解け
 4 四方の山歴々として鹿の子立つ
 5 甘酒や櫓立ちたる村社
 6 眠る子の腕輪の灯祭果つ
 7 樹に深く長き爪痕風青し
 8 海原のごとき笹薺夏帽子
 9 踊の輪二重になりて影の濃し
 10 嬰抱きて揺れたるだけの踊かな
 11 秋ともし革ひと縫ひの低き音
 12 語らひの果て新涼の月高く
 13 爐もみぢ沢辺に沸かす茶の匂ひ
 14 天窓の日の寒寒と丸太梁
 15 地図になき林道明し雪蛩
 16 冬の山ひとかたまりの獣の毛
 17 太薪を焚火二手に盛りけり
 18 やはらかき冬の日の斑や毘に鹿
 19 骸抜け血は凍土へ消えにけり
 20 水底の朽葉黒しよ鹿の死屍
 21 死屍の皮剥げば精肉年の空
 22 奉納酒あまねく照らす初日かな
 23 妻とゐる厨明るし紅葉鍋
 24 初日記鹿の休み場鹿の糞
 25 朝の窓瞬かせたるしづりかな
 26 メキシコの木彫傾げる雪の窓
 27 斜なま踏み獵夫の脚となりけり
 28 獵名残炉端に犬の寝言聴く
 29 春装の妻に駆け寄る犬の後
 30 クレソンの沢より村の朝眺む